

# 中島河太郎

## 名張図書館の乱歩コーナー

昭和62年8月1日

1987年

日本推理作家協会会報8月号 464号

発行：社団法人日本推理作家協会

### 名張図書館の

#### 乱歩コーナー

中島 河太郎

三重県名張市は名古屋から近鉄特急で一時間半のところにある。

江戸川乱歩は父親が同県名賀郡の書記であったので、この地で生まれて幼時をすごした。昭和三十年には父の住家址に「江戸川乱歩生誕地」碑が建てられ、その除幕式に乱歩夫妻は参列した。私がはじめて碑の所在地を訪ねたのは、昭和四十六年だった。駅のほうへぶらぶら歩いていると、図書館を見かけた。その入口に「江戸川乱歩文庫」という札がさがっていたので、中に入れてもらった。小さな書棚に乱歩の著書が三十冊ほど積んであるだけの貧弱なものであった。

それから三年後に、室生寺や赤目四十八滝を経て、また寄ってみた。生誕碑の建てられているのは病院の敷地で、その中庭五十坪の一隅にあったのだが、こんどは病院が増築したため、病室に囲まれた形となり、草が生い茂っている窮屈な様相を呈していた。

ことし七月、市立図書館が高台

に新築され、その一部に「江戸川乱歩コーナー」が設けられたので、平井隆太郎氏と私が招かれて峻工式に列した。

さすがに十五年前とは面目を一新して、最新設備を誇る図書館に生まれ変わっていた。乱歩コーナーには机、スタンド、洋服、帽子などの遺品の他に、「蜘蛛男」「黄金仮面」「鬼の言葉」などの原稿、名張の人に宛てた書翰、「宙を歩く白衣婦人や冬の月」というエリクズに因んだ句を書いた色紙など、それに乱歩賞受賞者の著書や色紙が陳列されて、資料収集に尽力された高野館長らの関係者の苦勞が窺われた。

峻工式には市長をはじめ、乱歩と縁故のある川崎代議士も顔を見せ、市をあげて乱歩の顕彰にとり組んでいる厚意が察せられた。

乱歩にとってはほんの僅かな因縁にすぎなかったが、没後二十二年余を経て、なお郷党の人々の寄せたる志は嬉しかった。

大川五郎（七月十七日）